

本件は、大阪市政記者クラブ、高知県庁県政記者クラブ、
幡多記者クラブ加盟各社に同時資料提供を行います。



平成 28 年 10 月 27 日
株式会社海遊館 広報チーム
〒552-0022 大阪市港区海岸通 1
TEL06-6576-5529 FAX06-6576-5551
(担当：村上、西村、田中)

(再送) 海遊館の研究所 以布利センターにて ジンベエザメの回遊行動調査を開始します

※本件は当初、平成 28 年 10 月 24 日（月）に予定していましたが、荒天のため日程が変更となりました。

大阪市港区の海遊館では、平成 23 年よりジンベエザメの回遊経路（回遊行動）を調査しています。この度、平成 28 年 10 月 31 日（月）に、本調査の一環として、高知県土佐清水市に開設している海遊館の研究施設「大阪海遊館 海洋生物研究所以布利センター」（以下、以布利センター）にて飼育中のジンベエザメ（オス、推定年齢 7～8 歳、全長 4.75m、推定体重 0.8 t）に小型の記録装置（データロガー）を装着し、ふるさとの海である太平洋に放流します。海遊館におけるジンベエザメの回遊経路調査は今回が 6 回目で、回遊経路の調査期間は 1 年間の計画です。

ジンベエザメは、初夏から秋にかけて日本列島の太平洋側沿岸を南から北に向かって回遊していると考えられていますが、詳しいことは解っていません。海遊館ではジンベエザメの回遊経路を調べるため平成 23 年から北海道大学と共同で小型の記録装置（データロガー）を取り付けて放流する手法（バイオロギング）で調査を開始し、平成 27 年に行った 6 ヶ月間の調査では、高知県以布利を出発したジンベエザメがフィリピン海域まで南下したことがわかりました。今回の調査では調査期間を 1 年間に延ばし、フィリピン海域に南下したジンベエザメが再び日本沿岸に北上する回遊行動を確かめることができると期待しています。

海遊館では、謎の多いジンベエザメの生態を解明することで、ジンベエザメの保全活動に貢献したいと考えています。

【ジンベエザメの回遊経路調査、当日のスケジュール】

日 程：平成 28 年 10 月 31 日（月）高知県土佐清水市以布利沖に放流
時 間：9:00～ 以布利センターにて、大型クレーンでジンベエザメを吊り上げて以布利港へ移動
10:00～ 漁船にて以布利港を出発
12:00～ 放流する沖合で小型記録装置を装着
12:30～ ふるさとの海、太平洋（高知県土佐清水市沖）にジンベエザメを放流

取材について

取材を希望される方は、事前に海遊館広報チームまでご連絡ください。

状況によって変化するスケジュールなどをお伝えいたします。

連絡先：海遊館広報チーム 06-6576-5529

1. 【調査を行うジンベエザメについて】

今回、回遊経路を調査するジンベエザメは、平成 26 年 6 月 29 日に高知県室戸市の定置網に入網し、同年 7 月 1 日に以布利センターに搬入。以布利センターで約 1 年間飼育したのち、平成 27 年 7 月 7 日に海遊館に搬入しました。海遊館で約 10 ヶ月間の飼育展示を経て、平成 28 年 5 月 8 日に以布利センターへ輸送し体調管理を行っていました。



以布利センター第 2 水槽を泳ぐジンベエザメ

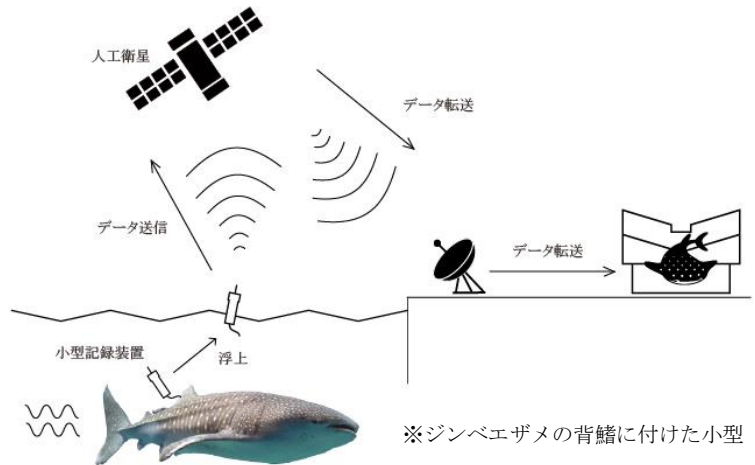
2. 【ジンベエザメの回遊経路調査（バイオロギング）について】

バイオロギング（Bio-logging）とは、生き物に小型の記録装置（データロガー）を付けて、その生き物（Bio）が自らの記録（logging）した行動を解析する研究手法で、なかでも観察が難しい海洋生物の海中での行動を調査研究で成果を上げています。近年、記録装置の小型化やデジタル化などにより、様々な生き物を対象に研究が進み、その成果が世界中で注目されています。



小型記録装置（長さ約 20cm）

海遊館では北海道大学とジンベエザメの回遊経路を共同研究しており、平成 23 年に開始してから毎年 1 匹のジンベエザメに小型の記録装置を取り付けて放流しています。小型記録装置は、計画した調査期間が経つとジンベエザメの体から自動的に外れ、記録されたデータは人工衛星（アルゴス）を経由して得られる仕組みです。記録する項目は、回遊経路（位置）と遊泳水深、水温です。



※ジンベエザメの背鰭に付けた小型記録装置が外れて浮上しデータを送信

3. 【過去の調査結果について】

※平成 25 年、26 年、27 年の 3 回はデータが得られ、結果の概要は下記のとおりです。

※平成 23 年から調査を開始していますが、平成 23 年と平成 24 年はデータが得られませんでした。

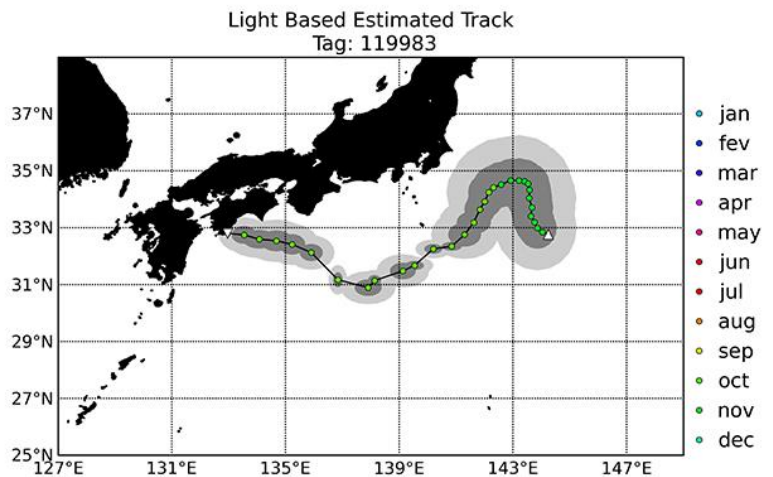
①平成 25 年

調査開始日：平成 25 年 10 月 14 日

調査期間：1 ヶ月間

最大潜水：水深 632m

回遊経路：高知県以布利沖を出発し
千葉沖まで北上



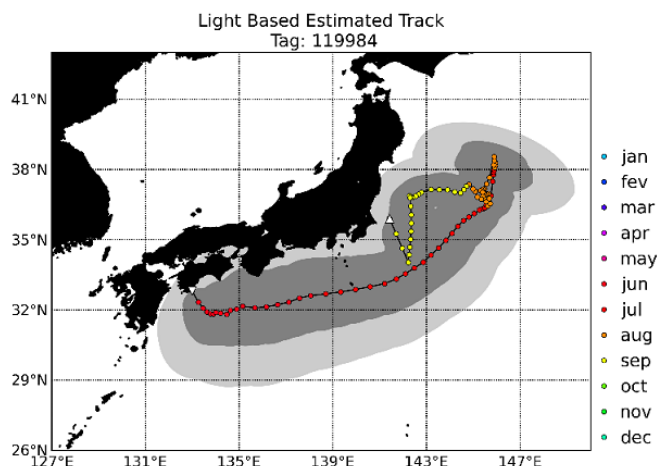
②平成 26 年

調査開始日 : 平成 26 年 6 月 13 日

調査期間 : 3 ヶ月間

最大潜水 : 水深 1,560m

回遊経路 : 高知県以布利沖を出発し東北沖まで北上
その後、千葉県沖まで南下



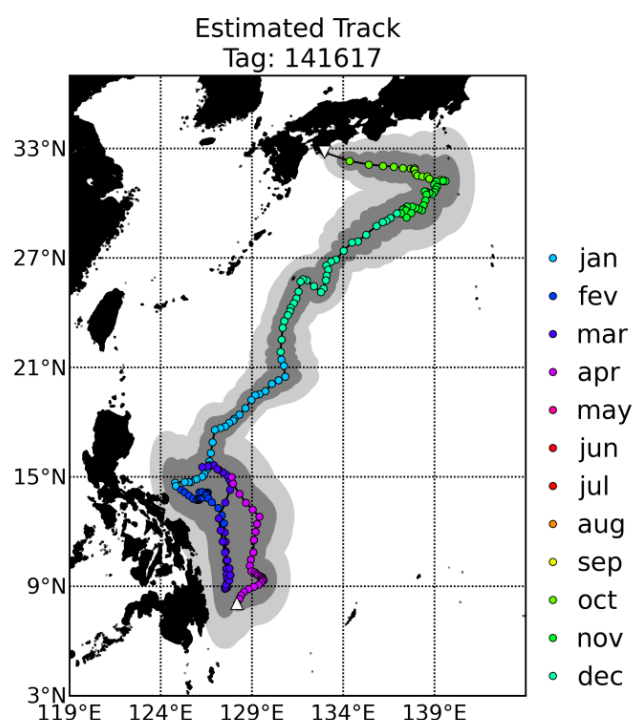
③平成 27 年

調査開始日 : 平成 27 年 10 月 13 日

調査期間 : 6 ヶ月間

最大潜水 : 水深 1,500m 以深

回遊経路 : 高知県以布利沖を出発し東へ移動、
黒潮海流に合流する付近で南に方向を変え
フィリピン南部まで南下。
その後、フィリピン北部あたりまで北上し、
再度南へ向う



4. 【共同研究者：北海道大学宮下和士（みやした かずし）氏】

1968 年生まれ 北海道大学教授。東京大学博士課程修了。農学博士。水中の観察技術の開発や、開発した技術を使った水中生物の生態研究などに従事。特に魚群探知機に関する研究については世界をリードする研究者である。また近年はバイオロギングに注目したプロジェクトを立ち上げ、これまでになかった機器を開発、応用することに力を注いでいる。海遊館とジンベエザメの回遊について共同研究を実施中。



5. 【ジンベエザメ 英名 Whale shark 学名 *Rhincodon typus*】

ジンベエザメ科。温帯から熱帯の沿岸および外洋に生息する大型のサメで、全長 18m に達する世界最大の魚類。ただし 18m という大きさは実際の計測に基づく正式な報告ではなく、その後、最大記録は全長 13.7m とされてきたが、この記録の真偽も不確かで、最近では最大 10~12m、稀にさらに大きく成長する可能性もあると考えられている。日本近海では黒潮海流によって初夏から秋にかけて主に太平洋沿岸域で目撃される。体は灰色で白色の斑点が散在し、小型甲殻類などのプランクトンを食べる。